

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

## . 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## . 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

項目数

11

2

1

3

3

2

2

1

1

6

1

2

1

2

11

9

2

**合計 30**

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム花々館 郡山
訪問調査日	平成19年12月7日
評価確定日	平成20年5月27日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 12月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム花々館 郡山
所在地	鹿児島市郡山町2157-1 (電話) 099-298-4078

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成19年 12月 7日	評価確定日	平成20年5月27日

【情報提供票より】( 19年 12月 7日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11.75

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	-------------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	60,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 20,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

## (4) 利用者の概要( 11月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院・前昌医院・藤井歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郡山地区の生活の中心である小、中学校、商店街の通りを少し入った、のどかで自然豊かな環境にある。職員は「利用者の心の声」を大切に、自由で喜びのある暮らしを支えている。ご夫婦で利用できる部屋を準備しているのも特徴の1つである。医療法人で開設されていることで、リハビリテーションへの支援や医療連携体制をとり、日常の利用者の健康管理や緊急時の対応など、利用者と家族が安心して暮らせるホームである。郡山保健センターでのらくらく体操教室に参加したり、近隣の人とのおつきあいなど、ホームを理解してもらうために、地域との関係づくりに努めている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を職員に報告し、職員も利用者と同じ食事をとるなど具体的な改善策に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議で日々のケアを振り返り、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加者はホームの関係者が中心であり、地域の方の参加が少ない。会議の内容は行事や事故報告が主である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年一回クリスマス会をかねて家族会があり、家族間の交流、意見交換が行われている。面会に来られたときに意見を聞くことが多い。おむつ交換についての苦情があり、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に参加できるよう民生委員の協力を得ながら働きかけている。地域の文化祭に陶芸の作品を出展している。郡山地区保健センターでの「らくらく体操教室」に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の心の声を大切に、自分らしさを保ちながら、自由に喜びのある暮らしを支える。」ことを理念に掲げている。地域の人々との交流が少ないので、ホームを理解してもらえよう働きかけている。		地域との関係づくりに取り組んでいるので、「地域密着型」サービスとしての役割をもちこんだ、事業所独自の理念を作ることも検討されたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は申し送りで理念を唱和することで意識を高めている。職員会議でも理念について話し合いをしている。日々の生活の中で、利用者の心の声を大切に支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加できるよう民生委員の協力を得ながら働きかけている。地域の文化祭に陶芸の作品を出展している。郡山地区保健センターでの「らくらく体操教室」に参加している。		地域住民の一員として地域の活動や人々との関わりを積極的に持つために基盤作りが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で日々のケアを振り返り、自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果を職員に報告し、職員も利用者と同じ食事をとるなど具体的な改善策に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加者はホームの関係者が中心であり、地域の方の参加が少ない。会議の内容は行事や事故報告が主である。		運営推進会議の意義や役割を理解し、地域住民や行政の職員に参加してもらえよう働きかけてほしい。事故報告だけにとどまらず、利用者が地域の中で暮らし続けるための取り組みを議題に取り上げるよう、検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する諸手続きなどの相談や情報収集につとめている。		市の担当者との連携を図り、地域密着型サービスとしての役割も検討し、運営推進会議への参加要請も望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も多いので、そのつど報告している。定期的には、毎月、利用者の様子や金銭出納など、利用者の写真や一言を添えてお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回クリスマス会をかねて家族会があり、家族間の交流、意見交換が行われている。面会に来られたときに意見を聞くことが多い。おむつ交換についての苦情があり、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は基本的に行っていない。入浴、レクリエーションやリハビリの通院介助など、2ユニットでの職員間で協力しながら、なじみの関係をつくっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的(4ヶ月に1回)に勉強会を行っている。法人内の研修にも職員全員参加している。月1回職員会議の中で身体拘束について研修している。		職員の段階に応じた研修をうける機会を設けて職員を育成し、事故防止にもつなげより良いサービスの向上に取り組まれない。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上させていくためにグループホーム連絡協議会に参加するなど、管理者は同業者との連絡は行っているが、職員レベルの交流の場は少ない。		職員レベルでも同業者との交流を持ち、事例検討や情報交換をする機会が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族の見学が多い。関連施設からの情報をもとに、本人、家族に相談しながらなじめるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物、団子作りなど昔の知恵や得意なことを教えあい、支えあっている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の様子を観察し、会話の中から思いをくみとり、希望の把握に努めている。家族からの情報収集にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を行い、利用者や家族の希望、職員の意見を取り入れて、ケアプラン作成システム(MDS - HC様式)を活用して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを通して、状態の変化に応じて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、通院・入院時の介助や買い物、理容など外出支援をしている。医療連携体制をとり、利用者の健康管理に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じてかかりつけ医との連携を取っている。医師の意見は同行者が直接、職員に伝えている。リハビリのときに受診をかねており、必要に応じて往診も依頼している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化においては早い段階で本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や職員と情報交換して方針を共有している。終末期には家族の同意をもらい緊急時の連絡体制をとっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	おむつ交換時のドアの開閉、カーテンの利用など羞恥心に配慮し、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報の厳守に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に合わせ、起床や食事の時間など、利用者のペースを大切に、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と献立を考えながら、本人のできること(食事の味付けや片付けなど)を大切にして、職員も利用者とともに食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間は決めているが、利用者の希望に応じていつでも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、花の手入れ、手芸など得意分野を発揮してもらえるように支援をしている。利用者同士の会話も楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族の協力をもらい、利用者一人ひとりの希望にそって、買い物や戸外に出る機会をつくっている。そうめん流しなど外食もおこなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで自由に入出入りできる。利用者の状態に応じて、職員が見守り、声かけなどを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をもとに、夜間を想定した避難訓練を含めて年2回実施している。2ヶ月に1回はホーム独自で避難訓練をレクリエーションの中で取り入れている。		運営推進会議を活用し、地域の協力体制を整え、連絡網、避難場所の確認などを検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士により栄養のバランスをチェックしている。月1回体重測定、年1回の血液検査などで栄養状態を確認している。職員は利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は自然の光が入り明るく、お茶やコーヒーのセットが置いてあり、利用者が自由に利用でき、思い思いに過ごしている。壁掛けなどで季節感を取り入れている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。夫婦での利用も可能な居室もある。		